

「戦後芸術と反万博」

公開
研究会



2025年2月11日(火) 16:00～

立命館大学国際平和ミュージアム2階セミナー室1

※事前予約不要・参加費無料



講師 細谷 修平 氏

(和光大学 表現学部 客員研究員)

1983年生まれ。美術・メディア研究者、映像作家。大学在学中にイメージ論、編集術を学ぶ。アーティストの活動に関わる聞き取りや調査、記録を通して、アート・ドキュメンテーションを行なっている。主には1960年代の芸術と政治、メディアを研究テーマとして、映像やテキストによる記録を行ない、シンポジウムや書籍のプログラムを通じた活動を展開。東日本大震災を経て、記録と芸術についての考察と実践を継続している。主な共著に『文藝別冊 澁澤龍彦ふたたび』(河出書房新社、2017年)、『日本のテロ 爆弾の時代 60s-70s』(河出書房新社、2017年)、『半島論』(響文社、2018年)など。一般社団法人戦後芸術資料保存代表理事。

主催：立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センター「平和博物館の戦争体験継承」

連絡先：兼清順子 kanekiyo@st.ritsumeikan.ac.jp

写真：ゼロ次元「銀座蒲団かつぎ儀式」(1968年、撮影：北出幸男、©ゼロ次元・加藤好弘アーカイブ)



立命館大学国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace, Ritsumeikan University